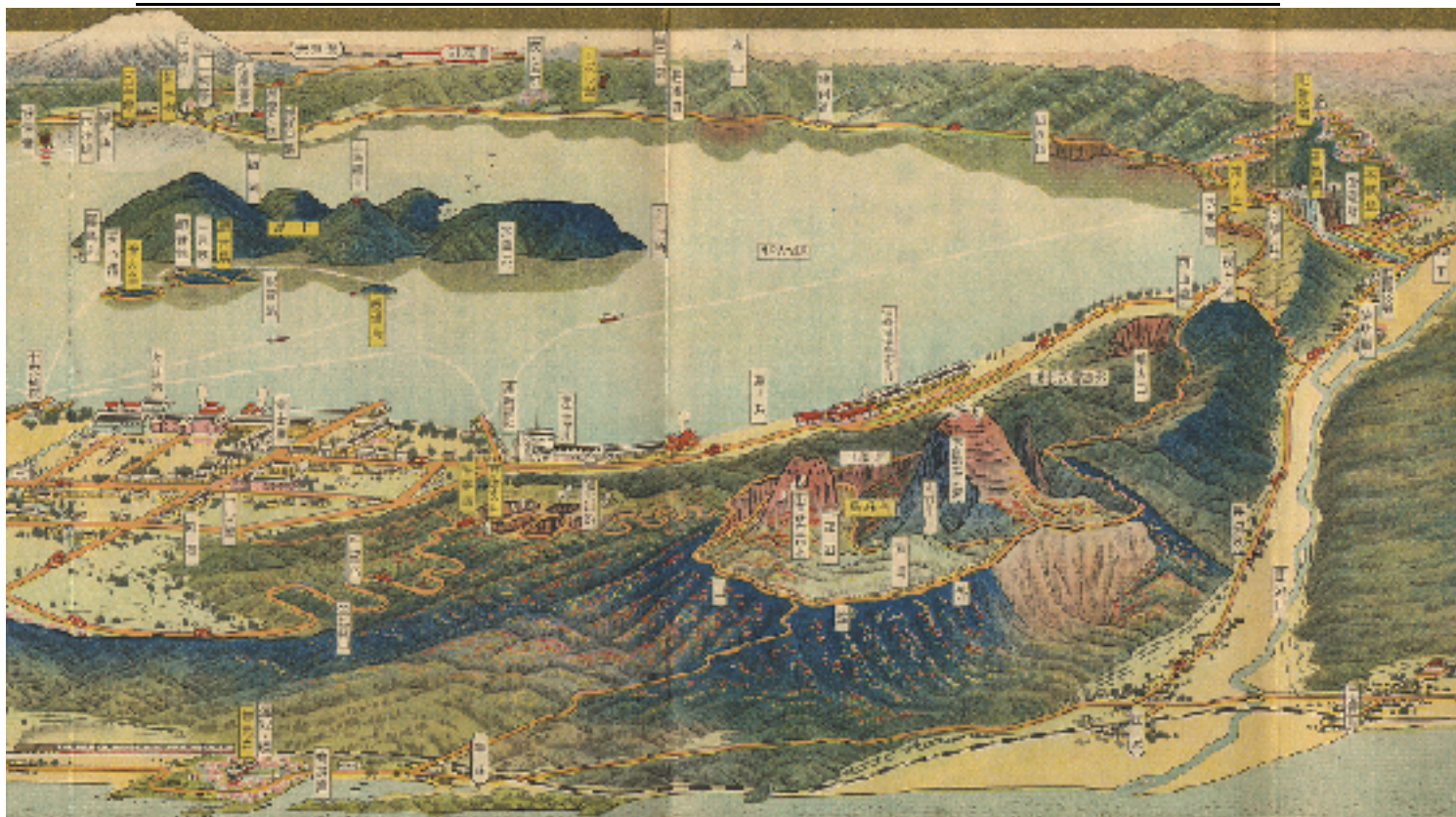


## ポイント 1 有珠東外輪（ロープウェイ山頂駅）からの展望

- 1) 有珠山麓方向を望むと、昭和新山がなだらかな裾野を引かず、急峻な屋根山から固結熔岩を突出している「隆起型火山」であることが、この位置から理解できる。
- 2) 又、長流川崖の洞爺火砕流堆積層及び立香・関内から太陽の園方面にかけて洞爺火砕流噴出物で埋め尽くされ、平坦地であったのが、長流川に浸食されて現在の地形が形成された事が理解出来るよう。
- 3) その他、長流川・道路・旧鉄道路線跡などが昭和新山により不自然に歪曲されていることも見て取れる。
- 4) 後方に目を転じると、巨大な「大有珠熔岩ドーム」がそびえ、今なお噴気している。これの生成について詳細な記録は残されていないが、この前後の有珠山絵図や古文書から嘉永6年(1853)の噴火で形成されたとされる。この噴火は大規模で、火砕流は長和方面に流下しているが、幸い人的被害は報告されていない。地域の土地利用が進んで居なかった事によるものであろう。
- 5) 有珠山麓で見られる熔岩は流動性のある玄武岩性熔岩で、黒みが強く、斑晶が顕著であるが、大有珠ドームの熔岩は淡青灰色のデイサイト熔岩である。
- 6) 大有珠ドームの1977年噴火に伴う大移動 今日の大有珠ドームは外輪山に接し、山麓まで急斜面を形成しているが、1977年噴火以前は外輪壁から約80m余下り、約200m余トラバースしてから大有珠ドームへの登りに取り付いたものである。当時は1853年噴火の爆裂火口の一部とされる前立岩(ドビンの口)が大有珠ドーム北端に高く聳え立っていた。1977年噴火で大有珠と中島間で約150m余の距離の縮み・移動があった。



ロープウェイ乗車前に（写真：1977年噴火前の大有珠ドームと東外輪山）



(有珠山鳥瞰図) 昭和 12年 6月 15日発行 洞爺湖温泉観光協会絵図簡書「湖郷は招く 洞爺湖温泉」より部分拡大



(写真 : 噴火前の前立岩)





(写真 : 大有珠とドビンの口 1977火山活動でドームに割れ目が入っている)



(写真 : 1977年噴火以前の右回り外輪山遊歩道)